

★5～8月にかけて安定した天候で生育良好 ★米価安への対策を取って水稲栽培の継続を

1 今年度の君津地域の水稲の生育を振り返って

今年度は、3月中旬から4月上旬にかけて高温傾向が続き、苗の高温障害や徒長との闘いで育苗管理が難しい年でした。一方で、4月中旬～下旬は最低気温が例年より低い日が多く、強風も重なって一部のほ場では活着が遅れ、生育の遅れにつながりました。

5月に入ると気温は平年並みとなり、その後は7月上旬に降雨が集中して低温となったことを除き、平年並み～やや高温傾向となりました。そのため、品種を問わず分けつの確保がしやすい状況でした。出穂期は、4月20日頃に移植した早生品種は平年並み、同じくコシヒカリは2日程度早まりました。成熟期については「ふさおとめ」は8月12日頃から、「ふさこがね」は8月15～20日頃からと早生品種は平年並みでしたが、「コシヒカリ」は8月22日頃からとなり平年より4日程度早まるなど、順調な生育を見せたシーズンでした。

一方、8月8日に接近した台風10号の雨、8月13～15日にわたる停滞前線の雨により、ほ場に水が入って収穫開始が遅れました。また、降雨の影響で、成熟期が近づいていたほ場では倒伏して収穫作業労力が増えるとともに、登熟不良や茶米の発生など品質低下につながりました。

病害虫に関しては、5月から温暖であったことからイネゾウムシによる切れ葉の被害が多かったほか、斑点米カメムシ類が多発傾向であり、防除ができない地域では斑点米が多く発生しました。また、葉色が濃く推移したほ場で葉いもちが多発しており、それらのほ場では穂首いもちが多く発生しました。

2 今年度の君津地域の作況概況について

関東農政局発表の本県の作況指数（10月25日現在）は「101」であり、概ね平年並みになりました。君津地域を含む南房総地域はやや良の「102」となりました。

品質については、斑点米カメムシ類の発生が多かったものの、適期に航空防除が実施された地域では大きな被害にはなりません。一方、梅雨明け後が高温になったことから、「コシヒカリ」「粒すけ」では乳白米が目立ちました。

3 来年度に向けて

①セーフティネット制度への加入

令和3年度は米価が非常に安く、水稲農家の経営を直撃しました。来年度も米の在庫が多い見込みで、米価が低いままとなることが予想されますので、ナラシ対策や収入保険など、セーフティネット制度への加入を御検討ください。

②飼料用米の導入

主食用米は米価の影響を受けてしまいますが、飼料用米は国、県及び市町村からの助成を受けられるため、比較的安定した収入を得ることができます。米価に左右されない安定した経営を目指すため、飼料用米の導入を検討してみたいでしょうか。

③イネばか苗病対策

イネばか苗病菌は、収穫した稲わら、米ぬか、籾殻等に存在し、翌年の伝染源となります。イネばか苗病の発生が見られたほ場では、稲株をすき込んで土中に埋没させることで菌密度を下げることができます。また、浸種、催芽、播種等といった、種もみを扱う作業場が汚染されていると、イネばか苗病が感染してしまう可能性があります。作業場やその周辺はよく清掃し、稲わら、米ぬか、籾殻などが無いように清潔に管理しましょう。

種子消毒を行う際には、化学合成農薬を使い、農薬のラベルに記載されている希釈倍数や処理時間などの使用方法を守ってください。また、消毒時の水温は10～15℃の範囲とし、浸種時の水替

えは静かに行うよう注意してください。減農薬栽培に取り込まれるなど、微生物農薬を使用する場合は、温湯消毒と組み合わせることをお勧めします。

水稻採種ほ場の周辺 200メートル以内に一定割合でイネばか苗病が発生しているほ場があると、収穫したもみは種子として扱えなくなってしまう。君津地域は県内で有数の種子産地です。地域全体での対策をお願いします。

④多年生雑草（オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ）対策

これらの雑草の塊茎は低温や乾燥に弱いので、よく乾燥するほ場では冬季の耕うんにより塊茎を地表面に引きずり出して寒気にさらすことで、塊茎量を減らすことができます。これらが多発するほ場では、除草剤にかけるコスト低減のためにも、耕種的防除を心掛けましょう。

⑤イノシシ等鳥獣被害の抑制

落穂や二番穂が残っていると、イノシシ等の鳥獣の餌場になります。いったん餌があることを覚えてしまうと、イノシシ等はほ場への侵入を繰り返すようになり、翌年の水稻被害につながりやすくなります。イノシシ等が侵入してくる地域で、稲刈り後にまだ耕起できていないほ場は、できるだけ早く耕起し、餌場にならないようにしましょう。

⑥健苗育成のため温度管理

苗半作という言葉があるように、健苗育成が水稻栽培の第一歩です。水稻の育苗では、最適温度が育苗ステージによって刻々と変わります。図1を参考に適切な温度管理を実施しましょう。

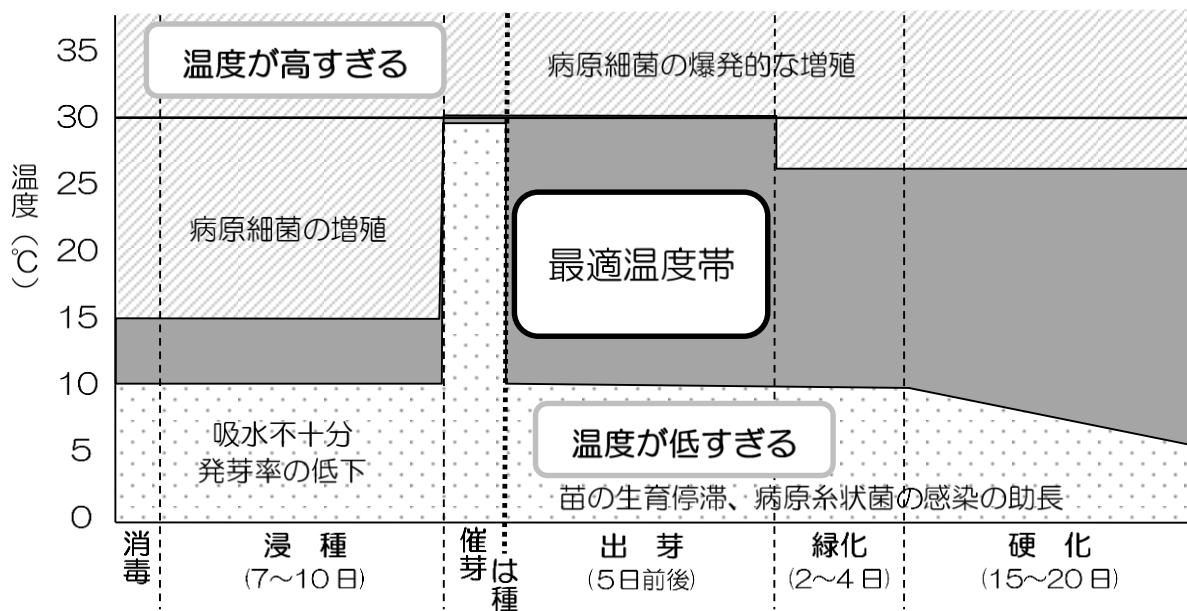


図1 育苗時の温度管理

4 種子保証票の保管について

種子保証票は、種子産地や種子生産者を確認できる、重要なものです。種子を原因とする事故が起きた時には保証票が必要になりますので、捨てずに収穫時まで大切に保管しましょう。

5 三島ダムからの用水を受益している皆様へ

三島ダム洪水吐改修工事が始まり、本年度から3か年に渡り実施されます。改修工事が完了するまで、引続きダム水位を下げて運用されますので、用水は大切に使用してください。冬の間、畦畔等の漏水箇所を補修しておきましょう。

令和3年度の稲作では大変お世話になりました。来年以降も引き続きよろしく申し上げます。ご不明な点等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。

通信費削減のため、「あぜみち」の配信を、郵便から電子メールまたはFAXへの切替えを進めています。切替を希望の方は、下記まで御連絡ください。

連絡先 鐘ヶ江（かねがえ） y.knge@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299（電話）